

第3回大阪府環境審議会食品ロス削減推進計画部会 議事録

○日時：令和2年12月18日（金）

○場所：大阪府咲洲庁舎37階 会議室（小）

【事務局】

定刻になりましたので、令和2年度第3回食品ロス削減推進計画部会を開催いたします。本日は、大変お忙しい中、またコロナ感染が大変なことになっておりますが、そのような中、委員の皆様におかれましては、お集まりいただき誠にありがとうございます。司会を務めます流通対策室の高取です。どうぞよろしくをお願いいたします。

では早速、資料の確認から入らせていただきます。まず、お配りしている資料の次第の下に資料1-1、食品ロス削減推進計画のあり方について（部会報告案）概要のA3の1枚もの。資料1-2、食品ロス削減推進計画のあり方について（部会報告案）。続きまして、参考資料1、食品ロス削減推進計画部会運営要領。参考資料2、食品ロス削減推進計画部会委員名簿。参考資料3、食品ロス削減に係る府民の意識調査（結果概要）となっております。皆様、資料の不足等ございませんでしょうか。

本日は、大阪商工会議所の常務理事事務局長の近藤博宣様にご欠席となっております。5名の委員の方にご出席いただいておりますので、運営要領に基づき、会議は成立していることをご報告申し上げます。また、大阪府情報公開条例第33条の規定及び第1回部会での検討により、会議は公開とさせていただきます。

では、ここからの進行を部会長の花田委員をお願いいたします。花田部会長どうぞよろしくをお願いいたします。

【花田部会長】

改めまして、皆様こんにちは。今日が最後の会議ということでございます。今まで様々な情報をご提供いただき、活発なご議論をいただきましたが、いよいよ今日まとめるということになりましたので、どうぞよろしくをお願いいたします。

では、次第の議題1、部会報告案について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

まず、次回の大阪府環境審議会の本審において、こちらの食品ロス削減推進計画部会の報告をする予定となっております。第1回、第2回の部会では、活発なご議論をありがとうございました。本日は、これまでのご議論をまとめた、資料1-1の部会報告案概要、資料1-2の部会報告案でご説明します。本日の検討内容は、第2回部会で、事務局の宿題で追加修正した部分や重要な部分を主にご説明し、委員の皆様にご議論いただきたいと思います。

具体的には、資料1-2の「1 食品ロス削減に向けた基本的な方向」と「3 食品ロスの現状と将来目標」、「6 計画の効果的な推進」につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

早速ですが、資料1-2の3ページにございます、「1 食品ロス削減に向けた基本的な方向」につきまして、ご説明します。前回の第2回部会で、大阪府が目指す将来像としてご議論いただいた部分になります。第2回部会では、資料に食文化を引用した文章を記載し、文章の下段に少し行政的な言い回しがござ

いまして、前段の文章に合わないというご意見が多くございましたので、今回トーンを合わせて記載しております。文章を確認させていただきますと、「天下の台所」云々と書いている1段落目は前回の部会から修正しておりません。2段落目のところに、以前は参考情報でしたが、「まったり」とした味わいというのを本文に入れております。そして、下3行を同じトーンにするため、このような大阪府民に培われた精神をもとに、食品ロス削減につきましても、大阪府民の「もったいない」と、「おいしさを追求する」心を大切に、事業者、消費者、行政が一体となって、『“もったいないやん！” 食の都大阪でおいしく食べよう』をスローガンに取組を進める、としております。こちらの事務局案ですが、第2回部会では大阪府が目指す将来像という項目でしたが、将来像というよりも、大きな方向といった文章になってきておりますので、国の基本方針に合わせて、「基本的な方向」という項目名としてお示ししております。また、「もったいないやん」の言葉の使用につきましては、神戸市に確認しましたことを申し添えます。以上です。

【花田部会長】

ありがとうございました。まず、「1 食品ロス削減に向けた基本的な方向」について、最後の文言を同じようなトーンで合わせる。もう一つは、「基本的な方向」としている、この二点が大きくご議論いただくところかと思えます。これにつきまして、ご意見いかがでしょうか。

【樋口委員】

とても良くなったと思います。とてもわかりやすく、読んでいて理解しやすい。1箇所だけ少し気になったのが、3段落目の「生産的に」という言葉が引っ掛かります。あとは、ずっと全部通って誰が読んでもよくわかると思います。

【事務局】

もう少し馴染みのある言葉の方がいいでしょうか。

【樋口委員】

「生産的」というのが。どうでしょうか。

【石川委員】

削って「立派に活かし」でいいと思います。いろいろ伝えようとしすぎている。

【事務局】

そのように修正します。

【花田部会長】

とてもいいと思いますが、美味しく食べるためには、美味しいものがないと美味しく食べられません。だから大阪には美味しいものがたくさんあるということが、「天下の台所」としてもう少し書かれている方がいいと思います。

1段落目の3分の2ぐらいが過去の感じがして、今に引き継がれているのは天かすぐらいという表現になっていると思います。せっかく大阪にはこんなに美味しいものに溢れているのですから、そこをアピールできると、読まれた方に本当にそうだと、本当にこれを活かさないともったいないと思っていただけ

るか。

【事務局】

最終案の中にはそういう形で少し入れられるようにします。たしかに、天かすだけが今の具体例になっているので。

【花田部会長】

今も溢れているという少し具体例を出していただけたらと思います。

【樋口委員】

串カツ、かやくご飯、きつねうどん。みんな美味しいですね。少しそういうのが入ったら。

【花田部会長】

出汁の文化もありますね。合わせ出汁という。

【樋口委員】

出汁の文化もいいですね。

【石川委員】

それと、ニュアンスの問題ですが、食品ロスだから捨てるようなものでも立派に活かし、合理性と始末を美德とするだけでなく、という否定から入って、美味しいものを食べると書いていて、食品ロスだからこれの方がいいかもしれませんが、導入で大阪は美味しいものがあるということから入ると、美味しいものを無駄なく食べるのが大阪の精神、という感じかと。具体的にどうすればという話ではないですが。

【樋口委員】

石川委員のご意見をお伺いして気づいたのですが、2段落目にいきなり「捨てるようなもの」から入るのはどうかと思います。

【石川委員】

この辺が少し気になる。

【樋口委員】

「捨てるようなもの」から入ると貧しい感じがするので、せっかく豊かな食文化とおっしゃっているので、必要であれば捨てるようなものでも活かす、としてはどうでしょうか。

【石川委員】

船場汁の事例が多分そうだと思います。鯖を美味しく食べるだけではなく、骨も頭も絶対捨てないという。

【花田部会長】

それが合理的ということですね。大切にするとさらに美味しくなるわけですから。2段落目の言い出しのところが美味しいものがいっぱいあるという言い方にして、その後、それをケチくさくなく、さらに

美味しくするように豊かに、というような表現を入れていただけたらと思います。他にご意見いかがでしょうか。

【加藤委員】

本文の11、12行目で、「まったり」とした、と書かれています、下の参考情報1から引用されていると思いますが、本文中でここだけ「まったり」と括弧がついていると、他と比べて違和感があるように思います。

【花田部会長】

参考情報1に括弧が入っていますから、本文にはいらないかもしれない。

【加藤委員】

逆にあると何かそこだけ強調している、そんな感じが少しします。

【石川委員】

特別に言いたいことがありそう感じに見えますね。

【花田部会長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

いただいたご意見を最終的に事務局で修正していただければ、「基本的な方向」の文章は、これでとてもわかりやすくなったと思います。

引き続きまして、「3 食品ロスの現状と将来目標」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

引き続きご説明します。資料1-2の6ページになります。「3 食品ロスの現状と将来目標」の(3)の「将来目標について」と記載しております。そちらの「②食品ロス削減の取組を行っている大阪府民の割合」の部分をご覧ください。国の基本方針では、「食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合を80%とする」とございますが、前回の部会では、同じような目標設定を大阪府で掲げる場合は、根拠になるような調査が必要だというご意見をいただきました。また、第2回部会では、取組の状況を把握するような指標ということで、いくつか事務局案をお示ししましたが、大阪府民の食品ロス削減の取組を把握するにはどれも遠い数字というご意見をいただきました。

その後、事務局で検討や調整を重ね、急遽、国と同様のインターネット調査を実施いたしました。この調査結果につきましては、参考資料3でお示ししております。調査の設問につきましては、消費者庁が実施した調査と同様の設問を使っております。その設問ですが、調査のQ1で、『あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。』、Q2で、『あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることがありますか。』と聞きまして、Q1で「よく知っている」、「ある程度知っている」と回答した層と、Q2で「取り組んでいることはない」以外を回答した層をクロス集計することで、国と同様の現状把握をしております。参考資料3の裏面にクロス集計の結果を記載しておりますが、大阪府内では、「食品ロス問題を認知して削減に取り組む大阪府民の割合は、約83.3%であった」となっております。

今回の大阪府の調査は平成30年度の国の調査を基にしております。ご参考に国の平成29年度、30年度、令和元年度の調査結果につきましては、同様のクロス集計した結果では平成29年度は71.8%、平成30

年度は 71.0%、令和元年度は 76.5%となっております。国の基本方針の目標 80%の基準になっているのは、平成 30 年度の 71.0%となっております。今回の大阪府の調査で、83.3%という結果から、事務局案としては、「2030 年度までに、食品ロス問題を認知して、削減のための具体的な行動を起こす大阪府民の割合を 90%とする」という目標を、本日の部会でご提案させていただきたいと思っております。

また、参考資料 3 に、結果のポイントをお示ししております。ご参考までに簡単にご説明しますと、Q 1 では食品ロス問題の認知度は若年層の方が高いという結果になりました。SDGs など学校で学ぶ機会が増えたことが要因の一つかもしれません。Q 2 では、食品ロス削減のために取り組んでいる行動の全ての選択肢で、女性の方が男性より割合が高いという結果となりました。

食品ロス量につきましては、国の基本方針を踏まえまして、大阪府の場合も国の目標と同様の 2000 年度比で 2030 年度に半減させることは、前回の部会のまま記載しておりますので、あわせてご確認いただき、ご議論いただきたいと思います。以上です。

【花田部会長】

ありがとうございました。これまでご議論いただきました食品ロス削減に取り組む大阪府民の割合を、どのように目標に掲げるかということで、この大阪府の調査結果がとても大切だと思います。

先ほどの説明の調査結果では、国と同様の目標としては、認知していて行動しているという割合が 83.3%、そこで大阪府の目標を 90%にするということでございます。こちらについて、皆様からご意見をいただきたいと思います。その前に確認させてください。参考資料 3 の Q 2 の調査結果に、「取り組んでいることがある」と何らかの選択肢を選んだ方が 93.8%もいらっしゃるということでしょうか。

【事務局】

その通りです。Q 1 で食品ロス問題を認知している方の中で、Q 2 の何らかの取組をやっている方をクロス集計した結果が 83.3%になります。そのため、Q 1 で認知していても、Q 2 で取り組んでいることはないと答えた方もいらっしゃいます。

【花田部会長】

Q 1 で認知している方が 86.3%で、Q 2 のみの結果で何らかの行動をしている方が 93.8%なので、食品ロスは問題だということを知っていなくても、行動されていた方が多いわけですが、それでもいいのではないかと思います。それから、目標設定について、すでに何らかの行動をしている方が 93.8%いらっしゃるの、そうすると認知度を上げることを努力するということになると思いますが、83.3%から 90%までにするのは、それに意味がありますか。

【事務局】

国と同様の目標にしております。

【花田部会長】

国と同様の目標にするということの一つあると思いますが、Q 2 の結果がすごい数字だと思います。何らかの行動をしている方が 93.8%というのは、20 人のうち 19 人が行動されているということです。だから、国の基準と同様の目標設定にするならば 90%という目標が妥当かと思いますが、Q 2 の結果だけ見ると、実際に行動されている方が 93.8%いるので、この数字をどうするかというところです。

【事務局】

Q2の設問は、国の選択肢のとおりに設定しましたが、1番多かったのが、「残さずに食べる」という回答で、こちらはとても取り組みやすい行動です。そちらにつきましては、食品ロス問題を全然知らなくても、残さないで食べる人が多かったということがあるかと思います。やはり、食品ロスという世界中でも大きな問題をSDGsに絡めるなどで認知していただいた上で、「残さずに食べる」ということをしていただくと、さらに取組が具体的になるのかと思います。

【花田部会長】

わかりました。その行動の意味を知ることですね。国の調査では、どの選択肢が多かったのですか。

【事務局】

国の調査でも、「残さずに食べる」が1番でございました。次は「冷凍保存を活用する」となっています。

【花田部会長】

大阪府の調査結果と一緒にですね。

【事務局】

一緒になっております。

【樋口委員】

国の調査では、Q1、Q2のそれぞれの結果はどのようになっていますか。

【事務局】

令和元年度の結果で、Q1は80.2%です。Q2は「取り組んでいることがある」以外の方は88.6%です。

【花田部会長】

やはり始末の心というか、大阪の素晴らしいところですね。

【事務局】

11月のイベントでブース出展した際に、食品ロスについて知っているとおっしゃった方は、今までで一番多くいらっしゃいまして、おにぎり1日1億個捨てているというコマーシャルで聞いたことがある方が多く、インパクトがあったものだと感じました。認知度自体はとても上がってきているというのは、その生の声を聞かせていただきまして感じたところです。

【花田部会長】

わかりました。

【樋口委員】

国の調査でも、食品ロスを知らないけど、行動している方が多いということですよ。

【事務局】

その通りです。今事務局でも相談しましたが、国と同様の調査をしたので、国との違いを明確に出せるように、この部会の報告案にも記載したいと思います。

【花田部会長】

大阪府の結果が高いので、そのようにしていただけたらと思います。議論を戻しますと、事務局案で90%を目標にするかということですが、クロス集計の結果だけを見ると妥当かと思いますが、実際にこれだけの方が行動されている状況で、目標を90%にするというのは妥当かどうか、委員の皆様いかがでしょうか。

【石川委員】

これは1,000人調査なので、Q1の結果だけ見ると認知層は約863人です。認知して行動している方は約833人で、その差の30人は認知していて行動していない方になります。この人たちを行動に移せたとしても、約86.3%になるので、認知層のみでは目標は達成できません。そうすると、認知していない方にも働きかけなければ、目標達成は難しいです。

ただ、認知していなくても何かは行動している人が多い。そうすると、なかなかメッセージとして複雑ですね。認知してもらおうというのは、行動してもらおうためにやると考えるのが普通ですから。

【花田部会長】

だから、このテーマ自体がとても難しいということがよくわかります。

【樋口委員】

消費者として聞くと、達成は難しいかもしれませんが、国の目標よりも10%高めの目標設定できるのは、大阪府のメッセージとしては、この数字で示されると結構インパクトがあると思います。だから、90%の設定にしてもいいかと思います。

【石川委員】

行動が目的で、そのためにまず認知層を増やす、それから認知したら次は行動してもらおうのだと考えるのが普通ですが、行動を1つでもしていたらいいという国に合わせた目標にするとほぼ全員やっているので、これ以上調査してもあまり大した結果が得られないと思います。

例えば2つ以上行動している方とか、国よりハードルを上げないと指標としての意味がないという話になります。質的にはここまで行動されているから、量的にはどう減るかということまで本当は聞きたいけど、それはなかなか難しいので、行動を2つやっている、3つやっているということで評価することはできると思います。アンケートの個票があればできますから。

【花田部会長】

そうですね、本当に石川委員の通りです。まず何だかわからないと思ったのは、何のために目標を設定するのかということです。SDGsの認知度であれば、その認知度を上げるというのは意味があると思います。ただ、食品ロスがこんなにあるから、食品を大切にしなければならぬことを知って、行動してもらうことが目的なのに、もう行動している方がこれだけいらっしゃるのですから、石川委員がおっしゃった通り、行動を2つ以上やっているということを目標にするということでも、国より進んでいる感じにな

ります。だからそれでもいいような気がします。

【事務局】

大阪府の調査で、個票のデータはあります。

【石川委員】

それでは、大丈夫ですね。最初の「基本的な方向」の議論で、大阪は美味しいものを無駄なく食べるところが大阪だ、という根拠になると思います。だから国が掲げる目標は、もう達成していて、行動層は90%を超えている。だから大阪は他の都市や国とは違う、さらにハードルの高い厳しい基準で目標設定をしたと言えいいと思います。

【花田部会長】

そうしませんか。

【事務局】

はい。

【花田部会長】

その方が理屈から言ってもスッキリします。そもそも大阪府の場合は、大阪府の調査結果から国の目標に合わせるのが難しいから、さらに厳しい目標にする。今後国も参考にするかもしれません。

【石川委員】

国の目標はもうクリアしたから、次のステップを大阪府は目指すということを掲げていったらいいと思います。

【事務局】

それでは、個票を確認しまして、委員の皆様のご意見のように2つ以上行動している方や、大阪府独自の出し方を早急に案でお示ししたいと思います。

【花田部会長】

2つ以上行動している方の現状を示していただいて、それで目標の事務局案をいただけませんか。

【事務局】

わかりました。

【花田部会長】

よろしくお願いします。

それでは、量的な視点ですが、食品ロス量につきましては、国と同様で半減を目指すということでよろしいでしょうか。石川委員、いかがでしょうか。

【石川委員】

半減でも大変だと思いますから、このままでいいかと。

【花田部会長】

半減も大変だと思います。大阪府も食品ロス量は、国と同様の半減を目指していくということで確認しました。ありがとうございました。

それでは、「6 計画の効果的な推進」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

続きまして、資料1-2の15ページをご覧ください。計画策定は、その推進や進捗管理がとても重要であると認識しておりますので、本日ご議論いただきたいと考えました。これまでの部会でも、ご議論いただきましたが、計画の推進や進捗管理を行う体制として、食品ロス削減ネットワーク懇話会を設置したいと考えております。これまでも部会委員の皆様でお世話になった方もいらっしゃいますが、今後は製造・卸・小売・外食・消費者・学識・行政という流通全体を網羅して、取組を推進していきたいと考えております。

そのようなことを、こちらの「6 計画の効果的な推進」にお示ししております。進捗管理として、その懇話会の場で、成果の検証やより効果的な取組を検討していくということもしていきたいと考えております。また、計画自体の見直しにつきましても、国の基本方針を踏まえた内容にしておりますが、5年後の2025年度に見直しを検討すると記載しております。以上です。

【花田部会長】

ありがとうございました。計画策定にあたって非常に大切なところですね。これからどうしていくかということで、計画の推進体制やその進捗管理、それから見直しについて、ご意見いかがでしょうか。

【石川委員】

以前のネットワーク懇話会メンバーの経験で申し上げますと、良い会議になったと思っているので、良いやり方だと思います。今回は、行政計画を立てて、それを推進していくというミッションがありますから、以前より、もう少し行政的に本気と言いますか、うまくいくといいぐらいのレベルではなく、もう少しコミットしていく必要があるところは違うと思います。そういう意味では、やっている現状がどうなっているかとか、こういうことをやったらこうなったとか、そういうマクロ的な何かが必要かと思います。理想的に言いますと、参考資料3のアンケートはとても意味がある情報であって、役に立っている。何かこういうものがインプットされて、それをみんなで共有して議論して、前に進むのが多分理想の姿だと思います。ただこういうものは毎月出すのはできないので、それをどう回すかは考えていく必要があると思いますが。

以前のネットワーク懇話会で良かったのは、明確なアウトプットがあったわけではないですが、メンバーの企業のそれぞれの取組をご発言いただいて、みんなでインプットしてやろうという感じになって、連携してやることが生まれたのは良かったと思います。

そういう意味でも、次の懇話会では全体でどうなっているか、大阪府としてどうなっているかというデータ、参加されている方や企業、外食産業を代表されている方からの情報を提供していただいて、さらに議論する必要があるれば、当事者の企業の方に来ていただいてもいい。そういう形でやっていけるといいかと思います。

【花田部会長】

ありがとうございました。この計画を推進していく懇話会という体制ですが、懇話会というふわっとした名前ではありますが、メンバーはこういうビジネスの繋がりの中で、食品関係を網羅することがまず必要かと思います。それから石川委員から当事者が参加するお話がございましたが、例えば「おおさかプラスチック対策推進ネットワーク会議」では、毎回の会議で2、3件の企業の取組を報告する場がありまして、とても良い事例のお話がありました。生産や外食などそれぞれの立場だけではできないことが、このネットワーク懇話会での成果として、各主体が連携して、次に進むというのに繋がれたらいいと思います。それから、その場のご意見が大阪府の政策に繋がっていくといいと思っています。

今回のアンケート調査でも大阪の素晴らしさを感じましたので、そういう結果を、この懇話会に参加される立場の方にも共有していただいて、どうしたら食品ロスを減らしていけるかということ、いろんなアイデアを出し合い、それを実践できる方たちに入ってきて、それを応援するような政策を打っていただけるといい、そのように回っていくといいと思います。これに関して、委員の皆様からご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【加藤委員】

外食の立場から申し上げますと、参考資料3のQ2の結果について、「残さずに食べる」ということを大阪府民の方は食品ロスの問題の意識があってもなくても結構取り組んでいらっしゃるという結果ですが、飲食店とか家庭で食事をされる時には、皆さん残さずに食べようということはかなり意識されていると思います。ただ、必ずいつも残さずに食べられるわけではないので、残さずに食べられなかったものは結局のところどうするのか。それから「冷凍保存を活用する」とか、他の回答がいろいろ出ていると思います。

以前のネットワーク懇話会の最初の方の会議で、例えば外食、流通、生産、消費者においてこういう原因で食品ロスがどれくらい出ているという表やデータを見せていただいたような記憶があります。各段階で食品ロスを減らすために、効果的な取組について、調査で分析できないかと思います。

【花田部会長】

ありがとうございます。樋口委員いかがでしょうか。

【樋口委員】

私も以前のネットワーク懇話会に参加しまして、どうしても消費者は消費者、行政は行政、事業者は事業者と、やはり一方向からの考え方で物を見がちなので、こういう懇話会の場でそれぞれの背景などお伺いし理解した上で、それでもさらに食品ロス削減に取り組んでほしいという意見を申し上げたいと思います。また、食品流通の関係者の多くの方たちのお話を伺うことは、なかなかそんな機会もないので、意見を申し上げる上では本当に大事なことで、この懇話会はとても大切なことだと思います。特に今回卸の方がいらっしゃらないし、3分の1ルールとかいろいろあるので、卸の方もぜひ参加していただけたらと思います。

【花田部会長】

様々な主体が参加していただくことが大切だと。また、それぞれの立場のご意見を受けた上で、それでもというご意見や、それぞれの状況について発言できる立場の方たちに参加していただきたい。例えば樋

口委員のお立場だと、消費者という立場で考えていただくことができますし、それを受け取ったときに、普及というところに繋げていくことができるわけです。また、例えば外食の杵屋さんがやっていることは、他の企業が注目するような影響力があり実効性があります。ありがとうございました。南野委員いかがでしょうか。

【南野委員】

私は以前の懇話会メンバーではありませんが、資料で示されている製造・卸・小売・外食等の食品関連事業者において広く食品ロスは出ていますので、一つの業界団体では取組と言ってもなかなか難しいと思いますから、流通業全体で食品ロス削減の取組を話し合っていけば一番効果があると思います。ただ、各業界団体もいろいろと多岐に渡っていますので、足並みをそろえて取り組むことはなかなか難しいという気がしますので、できるところから取組むことで成功例を示していけば効果があると思います。

【花田部会長】

ありがとうございました。食品ロス削減の取組は「やったら得で、いいことだ」と思っていただけのこととはとても大きいと思うので、そういう情報をメンバーの方に共有していただくということがとても大切かと思いました。ありがとうございます。

今のお話をお伺いして、例えば3分の1ルールの見直しなどは、一つの業種では絶対できないと思います。その見直しができるのは、サプライチェーンの様々な業界が入っているからです。だから様々な業界が意見交換できる場であつたらと思います。石川委員、懇話会について既にご意見いただいておりますが、改めてご意見いかがでしょうか。

【石川委員】

今回の懇話会は、コミットメントが違うので、全体の進捗やそういうことを意識して運営することが大事かと思います。

それから、以前の懇話会の経験から、うまくいきそうだという感じはあります。こういう会議は属人的でもあるし、属地的でもあると思いますが、雰囲気もあるので、この懇話会は多分うまくいく可能性が高いと思います。その要因については、委員の皆様がおっしゃった通り、参加していただく企業、その方が自社をうまく社内説得したりして、面白いことや有意義なことが動くようにしていただく、それができるように他の主体が協力しているという関係が成立するからだだと思います。さらにそれがうまく全体に広がるような感じに考えていけばいいと思います。

メッセージとしては、それを進めていくことで、何か個別のプロジェクトとしてこんな面白いことが始まりましたということもありますが、それは以前の懇話会でできたことですが、それ以上のものを考えておいた方がいいかと思います。大阪府として、食品ロス削減推進計画として、こういうことをして、こういうのができました、全体としてこうなりました、という感じです。本当は計画目標に繋がっているといいですけど。そこは、以前の懇話会は考えなくて良かったところですが、今回は考えいただいた方がいいかと思います。

【花田部会長】

この計画をどう進めるかというところなので、やはり大阪府の政策にどう反映していくかということも大きいかと思いますが、先ほどの大阪府の目標で、国や他の自治体より先に進んでいることをもし出す

とすれば、大阪が天下の台所で食い倒れのまちというのは日本国民皆さんが知っていらっしゃいますから、注目されている中で大阪府がどのように取り組むか。また、大阪府が懇話会のメンバーの方たちの流通全体で計画策定後に取組を進めるというところが、とても大きな以前とは違ってるところだと思いますので、そのあたりもどうぞよろしくをお願いします。

【事務局】

先ほどのアンケート調査で2つ以上の項目の行動をしているという件ですが、今、事務局でアンケートの個票について作業をしまして、Q2の設定問の単体で2つ以上行動しているというのが81.9%、3つ以上で66.2%となっております。Q1とQ2のクロス集計ですが、食品ロス問題を認知して2つ以上の行動しているのは74.2%、食品ロス問題を認知して3つ以上の行動しているのは60.6%となっております。

【花田部会長】

ありがとうございます。

【加藤委員】

さっきアンケート調査の件で言い忘れたことを思い出しまして、Q1でこれだけ認知されている方がいて、またQ2で行動されている方がいるのに、実際はすごい量の食品ロスが発生しているということは、やはり何か一つ足りないと言いますか、やっている人に自覚が足りないのか、そうでなければ何か阻害するような要因というのが何かあるのかと思います。

やはり、そこの辺りを追求して、対応していくことができればと思いました。

【花田部会長】

ありがとうございます。今のご指摘、本当にそうだと思います。そして、それを進めていくためには、1つはやはり仕組みを作っていくということかと思います。それは大阪府も一緒になって進めていかなければいけない。そうしないと進まないところかと思います。今アンケート結果を聞いて、一瞬喜びましたが、実際には食品ロスが発生していて、考えてみたら加藤委員のご指摘の通りです。だから本当にしっかりと個々の努力は大切だと、そして、その食品ロスが減っていくような仕組みというのを、次の懇話会で出していくという、そういうことが大切だと思います。ありがとうございます。

今、委員の皆様がいらっしゃる間にお聞きしたいのですが、大阪府の目標設定について、事務局からクロス集計を出していただいたわけですが、目標としては認知の話から離れましょうか。やはり、認知の話が入ると、ぼやけると言いますか、何を目標にしているということがわからなくなりますし、石川委員のご発言のように、認知度向上は行動する人を増やすためというところがあるわけですし、大阪府の場合、行動の方が認知より高くなっているのです。

それでは、2つ以上が81.9%、3つ以上が66.2%ということなのですが、3つ以上だと複雑になるので、2つ以上が妥当かと思いますから、現状の81.9%を踏まえて目標を85.0%ではいかがでしょうか。

【樋口委員】

数字を刻みますか。

【花田部会長】

少し気が弱いものですから。では90%とか。委員の皆様いかがでしょうか。

【樋口委員】

81.9%なので、85%だと少し刻んでいて、インパクトがないと思います。

【花田部会長】

では、90%にしましょうか。ご異論のある方いらっしゃいますか。大丈夫ですか。それでは、目標は2つ以上の行動する人の割合を90%にすると。何年計画でしたか。

【事務局】

10年計画となっております。

【樋口委員】

10年っていつまででしたっけ。

【事務局】

2030年度です。国の基本方針には5年後、2025年度に見直しを検討すると記載がありますので、大阪府も同じように明記する予定です。

【樋口委員】

いったん2025年度で中間的な見直しを検討するならいいと思います。

【花田部会長】

わかりました。一度に決めてしまいましたが、目標に関しては2つ以上の行動する大阪府民の割合を90%にする。大阪府の目標はすごいと思います。

【樋口委員】

それは、食品ロスをもう大阪府民はほぼ知っているという前提ですね。

【花田部会長】

そうですね。さらに行動も1つは既にやっている方がたくさんいらっしゃるの、2つにするというステップアップした目標です。ありがとうございました。では、最後に全体の構成ということで、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

改めまして、資料1-2について、全体の構成としましては、まず「はじめに」のところに背景と食品ロス削減推進計画を策定する必要があることをお示しし、ご議論いただきました「1 食品ロス削減に向けた基本的な方向」を一番初めにし、方向性を定めたいと考えました。「2 計画の基本的事項」ということで計画の位置づけや、計画期間を書いておまして、さらに2025年度に見直しを検討することを、15ページと重複しますが記載しております。「3 食品ロスの現状と将来目標」ですが、食品ロス量と先ほどの食品ロス削減に取り組んでいる大阪府民の割合でご議論いただいた内容を記載していきたいと考えております。「4 食品ロス削減に向けた施策の推進」については、これまで国の計画も法律もない中、大阪府では様々な取組を行ってきまして、その取組は国が昨年度に示した法律や基本方針に合致していた部分が多くありますので、これまでの大阪府の取組を(1)で掲載しております。(2)では、「大阪府が進

める基本的施策」ということで、今後の事業者への取組、消費者への取組を記載しております。「5 各主体の役割」には、国の基本方針を踏まえた内容を記載しております。その役割を果たしていただけるために、大阪府は施策を展開していくと考えております。そして、「6 計画の効果的な推進」では、先ほどご意見いただきました計画の推進体制、進捗管理としております。

また、資料1-1は、こちらの資料1-2の概要となっております、同じような章立ての流れで1枚にまとめております。以上です。

【花田部会長】

ありがとうございました。では、章立てや全体の構成、資料1-1の概要について、また会議の全体を通して、ご意見があればお伺いしたいと思いますが、その前にアンケート調査の結果について、資料1-2の6ページに参考情報として掲載してはどうでしょうか。

【事務局】

そうですね。資料1-2にも参考情報として掲載したいと思います。

【花田部会長】

よろしく願います。それでは、委員の皆様、ご意見いかがでしょうか。

【樋口委員】

今花田部会長がおっしゃった内容で、国の調査結果と比較できるように見せたら、より一層大阪府の特徴や、全国よりも高い水準であるイメージが明らかになると思います。全国調査に付随して大阪府の調査をして、その結果を見せたらいいと思います。

【事務局】

ご意見の通り、そのようにしないと大阪府の目標の決め方が唐突になってしまいますので。

【花田部会長】

そのあたりをよろしく願います。ありがとうございました。これまでの全体を通して、南野委員いかがでしょうか。

【南野委員】

私事ですが、食品ロスについては、以前に同じような取組をやっておりまして、その効果がこのように現在に引継がれている気がします。現在、農林水産省が各事業者と協力して商習慣の3分の1ルールの見直しに取り組んでおり、かなりのスーパーマーケットで見直しに取り組んでいるようです。以前はその商慣習を見直さないといけないという話だけで、終わっていたと思います。事業者の廃棄ロス削減等の取組みはそれ自体が自社の利益に還元されるので、個々の企業が取組みを進めていけばいいと思います。また、当時は消費者目線が抜けていたと思います。食品ロス量の数字を見ていると、半分が消費者に係わる部分ということですから、事業者の立場から消費者の食品ロス削減の取組みにどう貢献していけるか、そこをどうするのか考える必要があると思います。

【花田部会長】

ありがとうございました。では、樋口委員いかがでしょうか。

【樋口委員】

いつも消費者としての立場を少し超えて、発言していた気もしますが、先ほど花田部会長や石川委員がおっしゃったように、消費者が消費の場で押し付けがましくなく、消費者自身が自発的に、どのように食品ロスの問題を認識していくかということ、私たちの団体こそが啓発や教育を通じて、子どもたちや高齢者に向けて、もっとうすべきと示していかななくてはいけないことをとても考えさせられた、いい機会になりました。昨日もそういう形で、大阪府で開催された消費者庁のシンポジウムに登壇しまして、この部会話を、たくさん話題にすることで、とても説得力が出たと思います。

そして、いつものことですが、持ち帰りの運動を自己責任ということで、一生懸命進めたいと私は思います。もちろん、いろいろな問題があるのは承知しておりますが、やはり消費者側が自己責任で持ち帰ってきちんと消費することを徹底していくという考え方が広まれば、事業者の方たちも安心されると思いますので、今度は持ち帰りについて、どのように啓発し、仕組みを作っていくか、大阪府と一緒に考えていかせていただきたいと思っています。またよろしく願います。

【花田部会長】

よろしく願います。ありがとうございました。加藤委員いかがでしょうか。

【加藤委員】

外食の立場から、まずはお客様に提供するものの安全ということは、どのお店も心がけてきております。また、外食というのは薄利多売が基本でございますので、どうしても店の運営ということについては、効率を追い求めているところがございます。

このような会議に参加しまして、社会的責任といえますかCSR、それから今のSDGsでございますが、そういうことが今後飲食店という外食産業が生き残っていくためには、きちんと考えてチェックしていかなければいけないということが新たな課題として見つかったと思います。

また樋口委員のご発言でも、やはり消費者の方と本当に理解を深めながら、食べ残しの持ち帰りや使いきれない食材について、地域の行政の方などと協力をしながらどういう対応ができるか、今後も皆さんと一緒にいろいろと考えさせていただければ大変ありがたいと思っております。ぜひよろしく願います。

【花田部会長】

ありがとうございました。レジ袋の有料化も、昔レジ袋を無料で配っていた時に、有料化することをあスーパーと地域の方とで協定を結んだことが始まりでした。当時は有料化すると消費者が逃げていくとお店も思っていたわけですが、少しずつそうではなくなってきました。社会の認識がやはり変わっていったところもとてもあると思います。

持ち帰りに関しましても、食べ残しの持ち帰りの件も多分少しずつ消費者との信頼関係が築かれていったら、自己責任ということが浸透していくと思います。そうすると、お店の方も安心して、食べ残しの持ち帰りを進めていただけたら、食品ロスが減ると思いますので、そういう信頼関係がまだこれからなのが、食品ロスと思えました。ありがとうございました。石川委員いかがでしょうか。

【石川委員】

この部会はネットワーク懇話会のおきから共通してずっと感じていましたが、実質的に意味のあることが議論できることがとても価値があると思います。この場はいろいろな情報を出してもらって、意見をもらって、それでまた意見が変わったり、新しいことをみんなが発見したり、それを共有できますから。そういう意味でとてもいいと思います。

実はさっき私考えていたのは、先ほどの樋口委員からご指摘があつて、委員の方々がおしゃっていますが、アンケート結果がとても価値があります。非常に大事なものは、大阪府の現状、食品ロス量ではなくて、認知とそれからアンケートで答えている行動、これが全国と比べてかけ離れて高そうであるということはとても大事で、これは大きく出していく必要が多分あります。この報告案の概要の構成を見ると、それをどこにどう入れるのがいいかと思っていましたが、なかなかうまく入らない。アンケートについて触れられているのは将来目標の中の大阪府民の行動の割合ですから、これが目標の下で、しかもアンケートで調査していますという趣旨なので、ここに書き込むのであれば少し場所が違う気がします。

そこで、よくよく考えると、認知を増やして行動する人を増やして、そしたら結果が出るという話は、これ対策の論理ですから、その視点であれば一番大事なのは物量ですが、これは最後の結果であるアウトカムですので、そのために行動する人が何人いるの、認知している人が何人いるの、という話になります。これはアンケートでわかる事実です。認知はそれのもう一つ上のベースですが、大阪府民はみんなできてきているという話になっているので、その辺りの整理がいます。

これで言いますと「3 食品ロスの現状と将来目標」の中の現状が、今のところは食品ロス量のことだけ述べられていますが、ここに食品ロス量とアンケート結果の大阪府民の構造や認知ということを書いて、食品ロス量では大阪府はまあまあだけど、アンケート結果の行動は、ミクロ的に調べると全国と比べて高いということを知るようにしたらと思います。項目立てから少し構造を変えて、現状については、食品ロス量と大阪府民の意識や行動にした方がいいと思います。そうすると、目標についても自然に流れると思いました。全国の認知とそれから大阪府の認知レベルを対比して、こんなに違うので、だから全国の目標とは違う目標を作るという方が、話がスッと流れる気がします。

【花田部会長】

そのことについて、事務局よろしくお願ひします。

【事務局】

そのように検討したいと思います。

【花田部会長】

ありがとうございます。3ページに「基本的な方向」がありましたが、そちらに少し一言、大阪府民の行動の割合が高いということを入れてははいかがでしょうか。

【事務局】

そちらも検討したいと思います。

【花田部会長】

ありがとうございました。

【樋口委員】

2025年度の大阪万博は入ってこないですか。

【事務局】

まず、計画自体は2025年度に見直しを検討するというのは、万博が2025年度だからこそで、そこは意識する必要があると認識しておりますが、少なくともこの部会の報告案には、議論した内容を報告したいと思っております。

この部会報告からさらに内容を増やしたりして、計画についてパブリックコメントしていくので、他の大阪府の環境系の計画改定が今年度に重なっているのも、他の計画とも整合性をとりながら、万博のことをどう触れていくか検討していきたいと思っております。

【樋口委員】

そうですね。ちょうど将来に向けたSDGsや食料のことをテーマにしている、この食品ロスの計画に関連するので、触れていただかないと逆にもったいない、せっかく万博があるのもったいないと思います。

【花田部会長】

ただ一方で触れ方が難しいとは思っています。要するにイベントなので、2030年度までの計画の真ん中に設定されているイベントですから、それをこの計画の中でどう位置づけるかという難しさがあると思います。

【事務局】

逆にSDGsに関連する大阪府の環境総合計画や、国も調和を図る必要性を述べておりますし、大阪府の循環型社会推進計画が同じ今年度改定なので、その辺りとの整合性をしっかりと見極めていきたいと思っております。

【花田部会長】

今のご意見を踏まえて、「はじめに」のところ少し書くとか、そうすると見直しのときに、そこを見直せばいいと思います。ありがとうございました。

委員の皆様からご意見ありがとうございました。認知と行動のことが話題になったところですが、皆様もご存知の「ナッジ」も話題で、意識しないで行動するとか、あるいは仕掛けがということがありますが、今年度の卒研の学生で、ペットボトルのキャップは入れ物があるので取りますが、ラベルまでは皆さん剥がさないわけですね。どうしたら剥がしてもらえるかというところで、ポスターを作って貼って効果を調べたわけですが、それが例えば分けてくださいというポスターなのか、それとも分けたらこうなるよというポスターなのか、2パターンで比較すると、最終結果はまだ聞いていませんが、分けたらこうなるよという方が行動してくれるそうです。

何を申し上げたいかというと、食品ロス問題の認知はこれだけ高いという大阪府の結果になって、知らないけどやっていた、それでもいいじゃないかではなく、行動の結果や影響を知ってやるかというのはやはり大きな違いがあると思います。その後自分で工夫して行動するなどいろんなことに繋がると思うので、今回行動で2つ以上ということを目標にしましたが、食品ロスの啓発自体は大事で、軽んじるも

のでは全然ないということです。やはり認知も大切だと思います。

また、この計画を進める上で、委員の皆様もおっしゃったように、ネットワークはとても大切で、特に食品ロスを減らすのはネットワークだと思います。個々の努力はもちろん大切ですが、そのネットワークを活かし切ることが重要だと思います。そこで大阪府がしっかりとこういう計画を策定するからには、取組が促進するような政策を進めるなどがやはり大切だと感じました。

これまで3回に渡っていろいろご議論いただいてありがとうございました。

【事務局】

今事務局の方で相談しまして、インターネットでのアンケート調査について、再度ご説明させていただきます。今回の大阪府のインターネット調査で、国と同様の設問で実施しましたが、国は毎年やっているので、国の基本方針の基準になっている平成30年度というコロナ前の国の調査結果を数字としてご説明しました。大阪府民が頑張っていることは間違いないですが、国との比較の中で、コロナがどう影響しているのか、また、認知度は年々間違いなく上がってきていますので、国の調査結果のどの年度をとって比較するかなど、早急に分析し検討して修正しまして、花田部会長と石川部会長代理とご相談させていただいて、委員の皆様にも共有したいと思います。

【花田部会長】

わかりました。確かにコロナがありますね。

【事務局】

コロナにより意識は変わってきているかと思います。

【花田部会長】

コロナの最初のときに巣ごもりになりましたが、その時に大掃除をして、かなり食品が出たという話を聞いています。こんなもったいないことしていたと、気づくきっかけになったと思います。東日本大震災の前後ぐらいのインパクトがあるかもしれません。

【事務局】

目標のところについては、委員の皆様にご議論いただいた2つ以上というものにさせていただき、背景については、できる限り分析をして、事務局案をお示ししたいと思います。

【花田部会長】

国のご担当の方にもぜひご相談いただいて。

【事務局】

はい。

【花田部会長】

よろしく願います。今回の部会の修正をもって、本審での部会報告ということになりますね。

【事務局】

はい。

【花田部会長】

わかりました。今回の部会はこれで全て終了ということになりました。皆様、本当に活発なご議論ありがとうございました。私もとても勉強させていただき、ここでの議論が他の会議などでも生きてきますし、大阪府内のいろいろな自治体などにも生きてくるので、大変ありがたかったと思います。改めて、委員の皆様と事務局に感謝申し上げたいと思います。では、事務局に進行をお返しします。

【事務局】

花田部会長、ありがとうございました。皆様ありがとうございました。では、本日で最後になりますので事務局を代表いたしまして、流通対策室長の西村から一言ご挨拶申し上げます。

【事務局（西村室長）】

大変熱心なご議論いただきまして、ありがとうございました。本日は、おかげさまで食品ロス削減推進計画の策定に向けた当部会としての議論を無事に終えることができました。修正等いろいろこれからさせていただきますので、ご期待いただきたいと思います。3回に渡る審議にご参加いただきましてありがとうございます。また今回は、非常にタイトなスケジュールの中で、それぞれの専門分野から多数の貴重なご意見やアイデアをいただきました。そのおかげで大阪らしい食品ロス削減推進計画ができると思っております。今後は、先ほど部会長からもおっしゃっていましたが、この部会としての報告案を来年1月の大阪府環境審議会の本審に提出し、花田部会長からご報告をいただくということになりますので、部会長よろしく願いいたします。最後になりますが、この場をお借りしまして各委員の皆様に改めまして深くお礼を申し上げたいと思います。皆様本当にありがとうございました。

【事務局】

では、以上で本日の会議を終了いたします。皆様、3回に渡り熱心なご議論本当にありがとうございました。